

# 日刊 動労千葉

84. 10. 9

No. 1762

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

# 明日もよい日は

## さあ行くぞ！ 三里塚！国鉄決戦勝利！ これが動労千葉の決意だ

いよいよ明日、動労千葉は、組織内外の全注目のなか、三里塚現地二期決戦に総決起する。

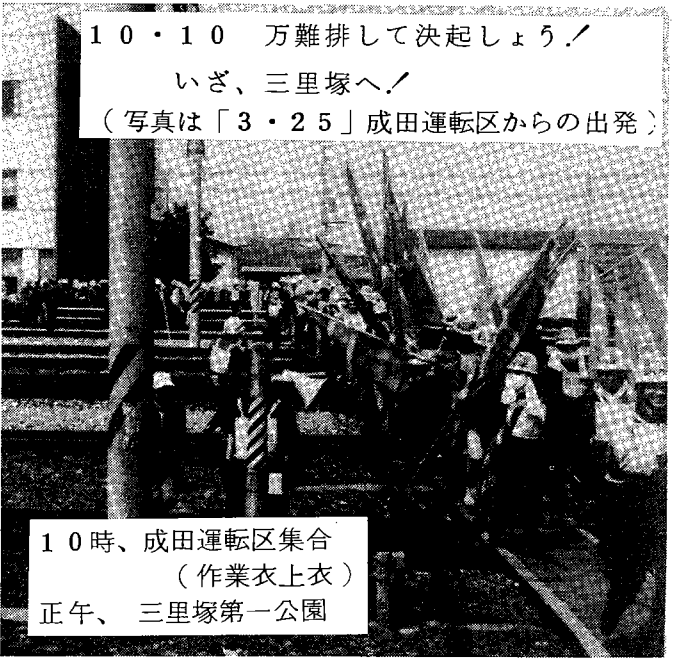
すでに明らかにされているように、第9回定期大会で「3・25を上まわる動員」方針のもと、総決起することに絶対的確信をもち、各支部、全組合員の決意をもってこの壮絶な闘いがかちとられようとしている。「三里塚・国鉄」を焦点に階級情勢全体が今秋決戦に突入する。従って「10・10五割動員」をなにもかちとることこそ、まさにわれわれ全労働者階級につきつけられた歴史的課題にはかならない。

### 「常識」うち破る再度の挑戦 根こそぎ「五割」決起

「余剰人員対策」と称する当面の「三本柱」「60・3」を焦点とした未曾有の首切り国鉄労働運動解体攻撃に直面し、けつしてうろたえることなく反撃していく基軸として、われわれは、10・10の闘いに挑戦するのである。すでにわれわれは「3・25五割決起」の闘いを圧倒的にかちとってきている。その路線・決意・組織力・団結力は、われわれをとりまく全情勢のなかですぐれた優位性を保ち全国の労働者、とりわけ国鉄労働者に闘うべきはこうであるということをしらしめしてきた。であるからこそ日帝・中曽根内閣もまた「戦後政治の総決算」攻撃を「国鉄・三里塚」を最大の焦点にすえてきている。「今は闘うべきではない」方針を組合員に暴力的に強要し、それどころか闘う部隊に襲いかかるといふ完全な労働者の敵となつている動労「本部」革マルの腐敗は別として、対決すべく既成革新政党的総屈服・後退と国労中央の今日までのパターンの闘いの取り組みと限界性をはるかに突破する敵の攻撃性質、情勢を適確にとらえて「この闘い以外にない」という確信のうえに10・10の闘いに決起するのである。従って、並大抵の闘いではない。しかし、並大抵の闘いでないからこそわれわれは、なんとしても闘わなくてはならないのであり、この闘いこそわれわれの反撃であり、敵に対する攻撃的闘いであると言えるのである。

**中曽根に叩きつける！  
わが国鉄労働者の怒りと決意**

三里塚現地ではすでに既報のとおり、二期決戦の只中にあり、三里塚芝山連合空港反対同盟は、うって一丸となり、血を流し実力闘争に決起して



10・10 万難排して決起しよう！  
いざ、三里塚へ！  
（写真は「3・25」成田運転区からの出発）

10時、成田運転区集合  
（作業衣上衣）  
正午、三里塚第一公園

砕粉攻撃を組織破壊の強固な団結で家族組合員全